

FRBは年内に量的緩和を縮小へ、日銀は大規模緩和を維持

ポイント① 緩和縮小決定は次回会合の可能性

9月21、22日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）では、次回11月会合で量的緩和の縮小開始を決定し、22年半ばまでに完了する可能性が示されました。FOMC参加者による経済見通しによると、景気・インフレともに概ね上方修正しています。6月の会合では利上げは23年開始としていましたが、今回は前倒しされ、22年にも利上げを行なう見通しとなりました。また、24年の見通しも追加されており、23年、24年は年3回ペースの利上げが予想されています。利上げ開始は急がないことを強調している一方、FRB（米連邦準備制度理事会）はタカ派色を強めつつあり、更なる議論の進展が見込まれる次回会合には注目です。

ポイント② 日銀は大規模緩和を維持

22日に開催された日本銀行の金融政策決定会合では、現行の金融緩和策が維持されました。日本の新型コロナウイルス感染者数は減少傾向にある一方、変異株の影響等によりサービス消費を中心に景気の下振れリスクは残っています。しかし、新型コロナウイルス対応の資金繰り支援策の期限延長は見送りとなりました。日銀はワクチン接種が順調に進んでいることを背景に、今後の景気は徐々に回復していくと考えているようです。

ポイント③ 市場の動きは限定的

米10年国債利回りは小幅に上昇したものの、今回のFOMCでは量的緩和の縮小開始は決定されず、タカ派的な見方をする参加者の増加も織り込まれていたことから市場の動きは限定的でした。日本の10年国債利回りも、政策に変更がなかったことから0%に近い水準で推移する見込みです。

FOMC参加者の経済見通し

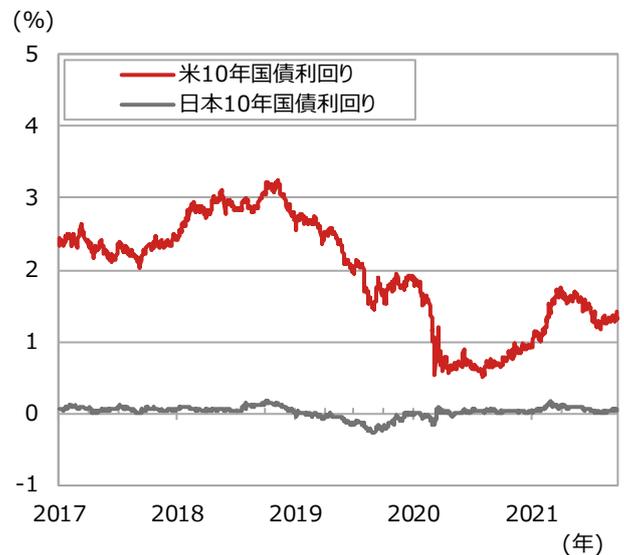
(単位、%)

	予測時点	2021					中長期
		2021	2022	2023	2024		
実質GDP ¹	21年9月	5.9	3.8	2.5	2.0	1.8	
	21年6月	7.0	3.3	2.4	-	1.8	
失業率 ²	21年9月	4.8	3.8	3.5	3.5	4.0	
	21年6月	4.5	3.8	3.5	-	4.0	
個人消費支出デフレーター(総合) ¹	21年9月	4.2	2.2	2.2	2.1	2.0	
	21年6月	3.4	2.1	2.2	-	2.0	
個人消費支出デフレーター(コア) ^{1,3}	21年9月	3.7	2.3	2.2	2.1		
	21年6月	3.0	2.1	2.1	-		
FF金利 ⁴	21年9月	0.1	0.3	1.0	1.8	2.5	
	21年6月	0.1	0.1	0.6	-	2.5	

(注) 1：第4四半期の前年同期比 2：第4四半期平均値
3：エネルギー、食品を除く 4：年末または中長期の目標レンジ中央値

(出所) FRB資料より野村アセットマネジメント作成

日米の10年国債利回り



期間：2017年1月2日～2021年9月23日、日次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント

- 10月1日 9月調査日銀短観（日本銀行全国企業短期経済観測調査）
- 10月8日 米雇用統計（9月）
- 11月3日 米金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。